

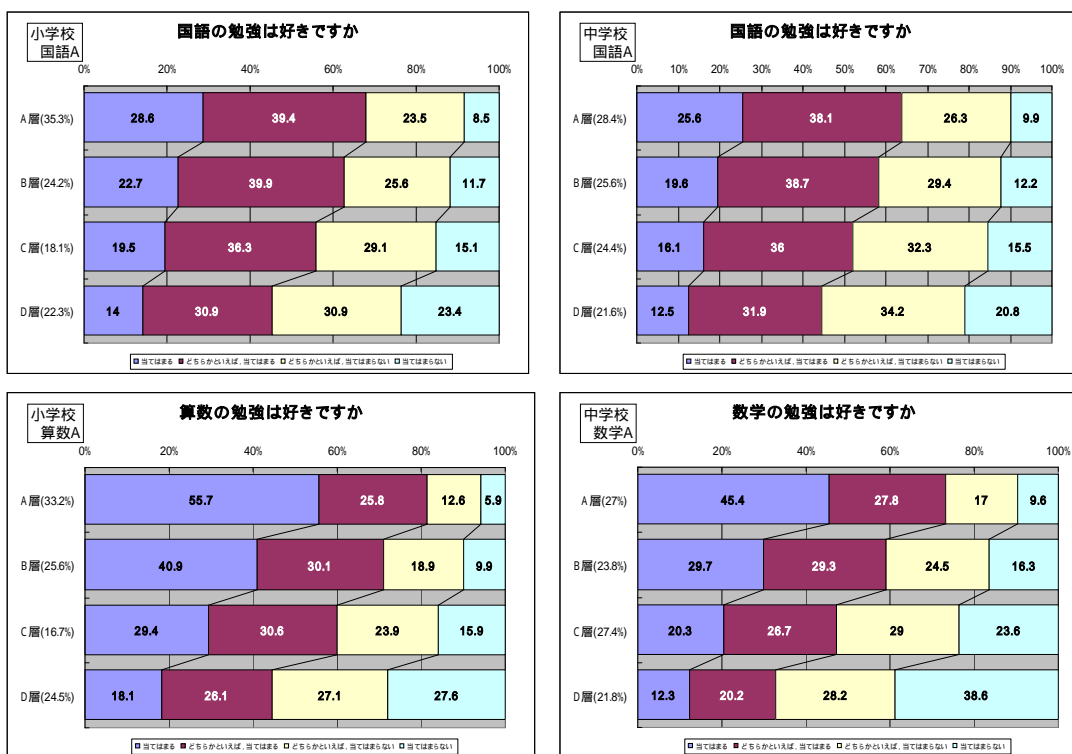
学習状況に関すること

以下には、全国に比べ、特に特徴的なものを中心に示す。その対策や分析については、次の2点を参考にして、まとめたものである。

文部科学省の分析結果を利用する。
平成19・20年度の分析で得られた知見を利用する。

<学習に関する関心・意欲・態度>

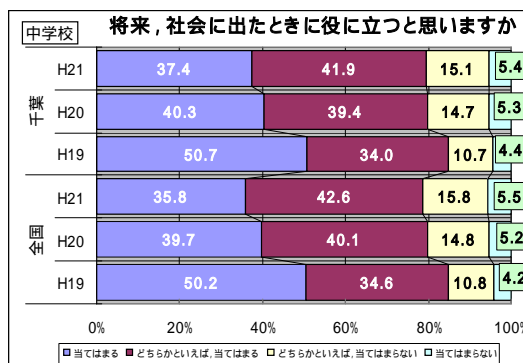
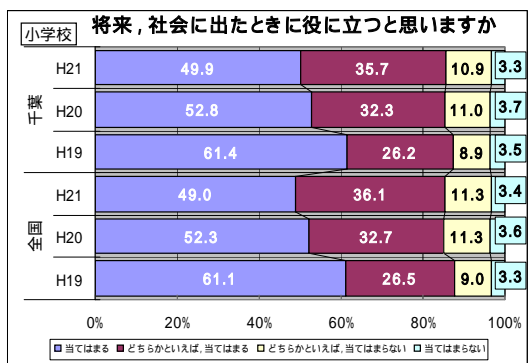
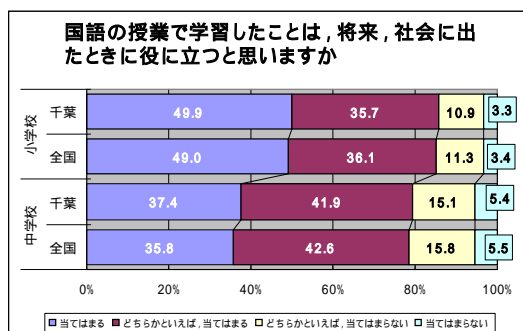
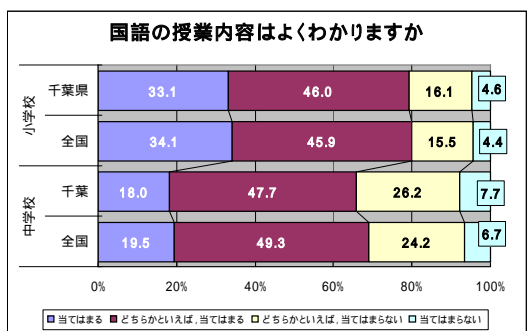
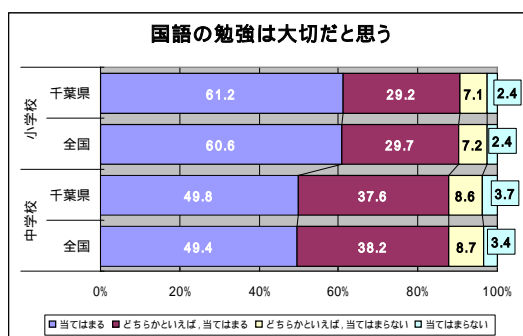
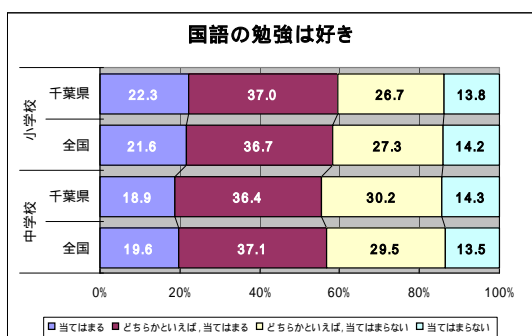
これまでの知見から、国語、算数・数学について、「勉強が好き」「勉強が大切」「役に立つ」と思う児童生徒の方が、それぞれの正答率が高い傾向が見られる。



なお、上のグラフは、児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分け、児童生徒質問紙の設問についての回答の割合を示したものである。B問題についても同様の傾向がみられる。

国 語

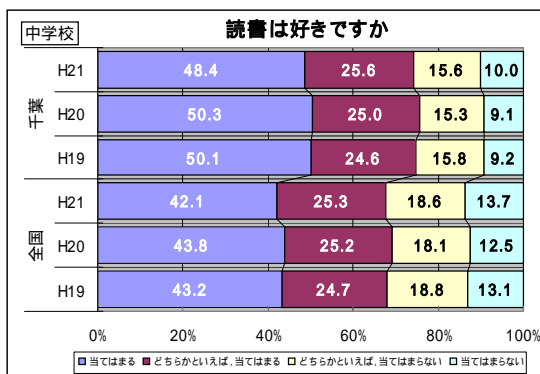
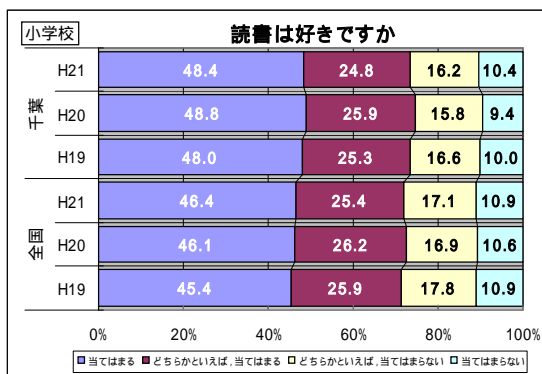
小中学校ともに、「大切」と回答する割合は、全国と同様に8割を超える。
 中学校では、「将来役に立つ」と強く肯定する割合は、全国より高い。
 小中学校ともに、「将来役に立つ」と強く肯定する割合が年度を追うごとに
 低くなる傾向がある。
 小中学校ともに、「読書好き」は、全国より高い傾向が続いている。



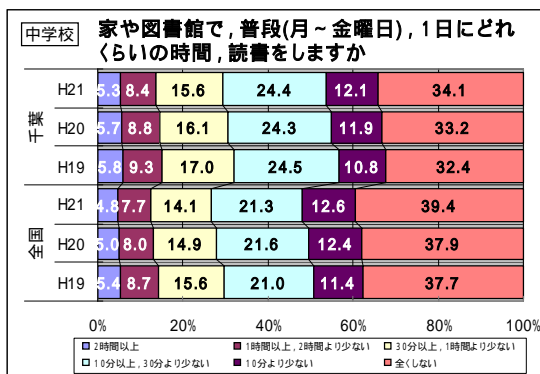
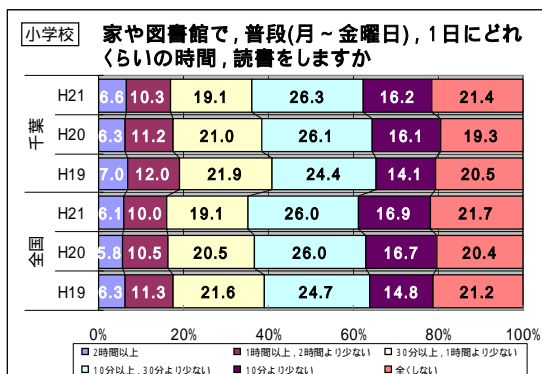
3年間の推移を比較すると、「好き」「大切」「わかる」の各項目共に、全国の傾向とほぼ同じ傾向がみられる。「将来役に立つと思いますか」の項目については、小中学校とも、「当てはまる」と強く肯定する回答する児童生徒の減少が見られる。

実生活と国語の学習との関連を明らかにした指導が必要である。

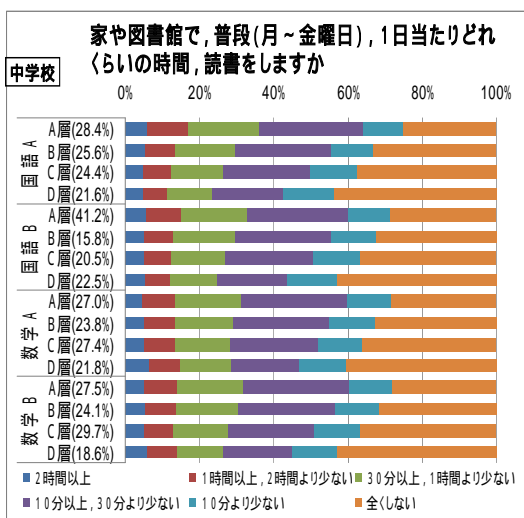
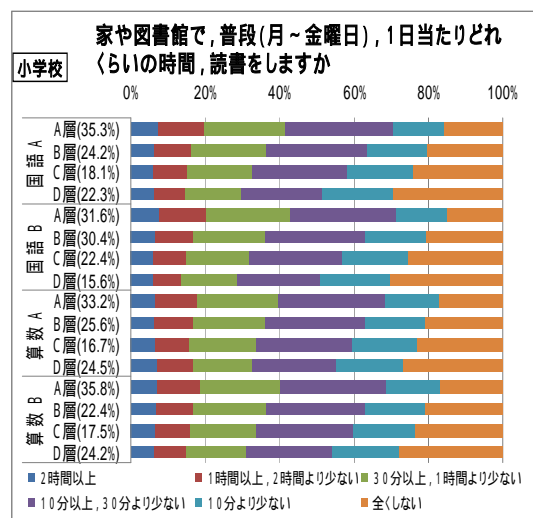
読書に関連する事項



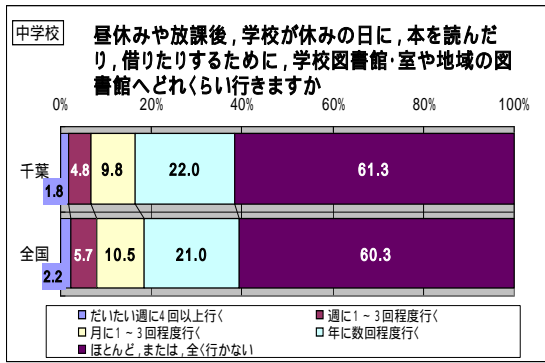
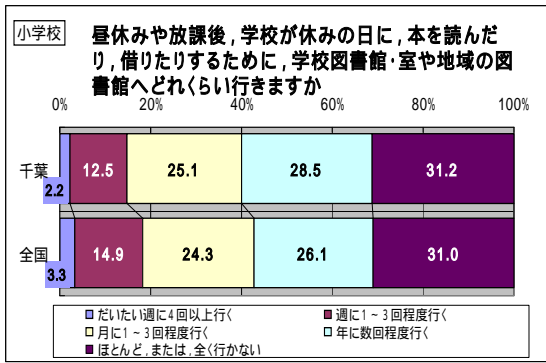
読書に関する質問については、小・中学校共に全国よりも肯定的に回答する児童生徒の割合が高い傾向が3年間続いている。



普段(月～金曜日)に、家や図書館で1日に読書する量は、全国とほぼ同じ傾向にあることがわかる。小学校では「全く読書しない」と回答した児童が約20%、中学生では約35%おり、徐々に増加する傾向がある。



児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分け、それぞれの回答の割合を示している。下位層ほど、読書をしない割合が高いことがわかる。



学校図書館や地域の図書館の利用については、小学校では約30%が中学校では約60%が全国と同様に「ほとんど、または、全く行かない」と回答している。

学校図書館の利用を活性化する手だてが必要である。

「国語の授業」に関する質問

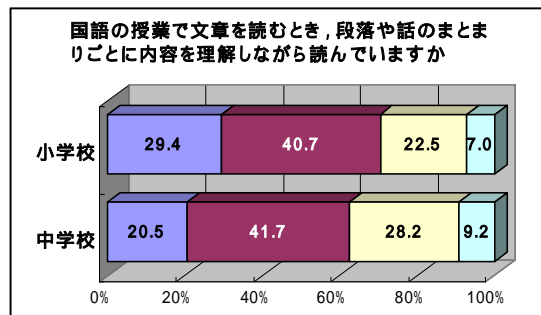
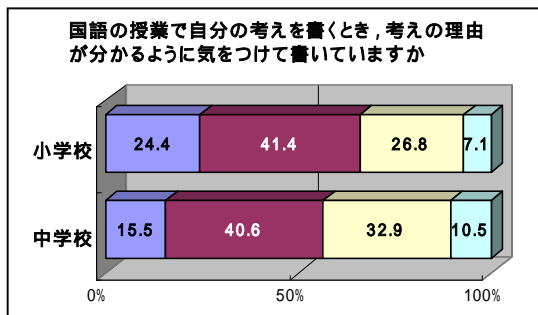
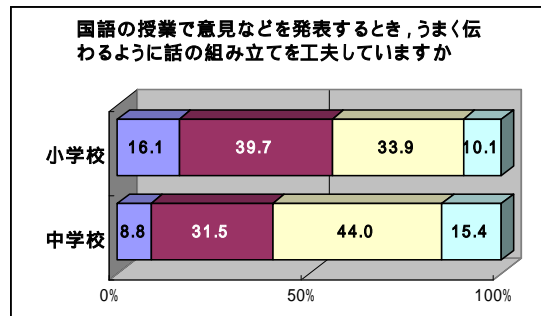
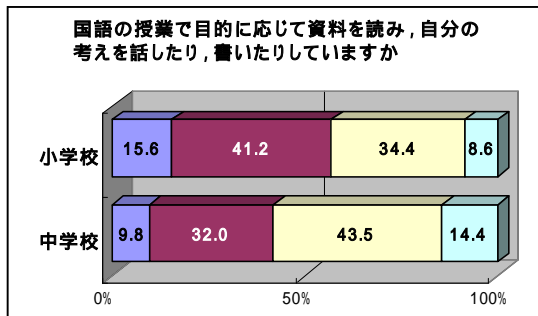
Q 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

Q 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか

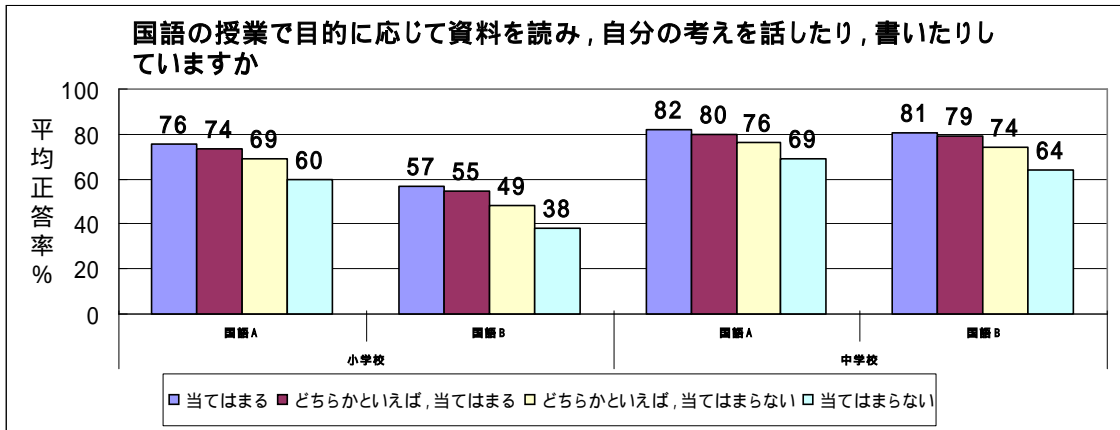
Q 自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか

Q 文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか

4つの設問の回答について、小中学校ともに全国の状況とほぼ同様である。また、平成20年度と比較し大きな変化はない。

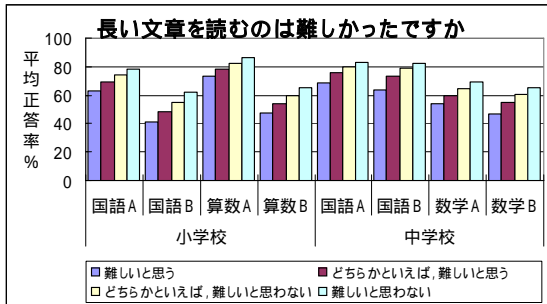
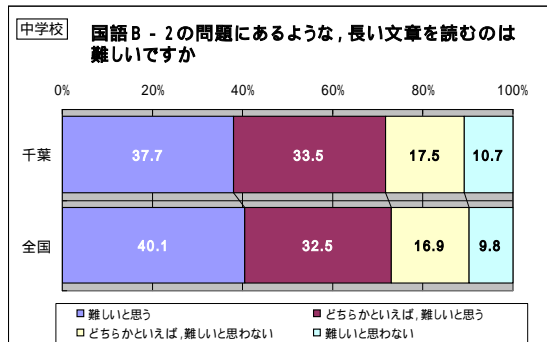
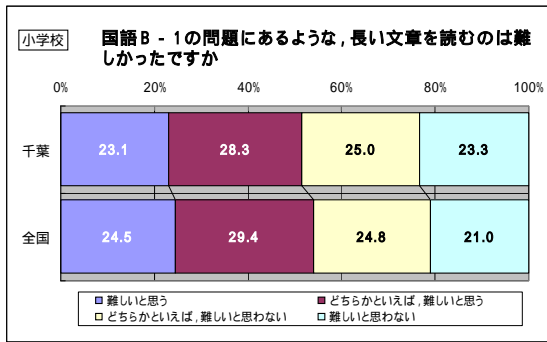


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



4つのどの設問についても、「当てはまる」とした児童生徒ほど、正答率が高い。

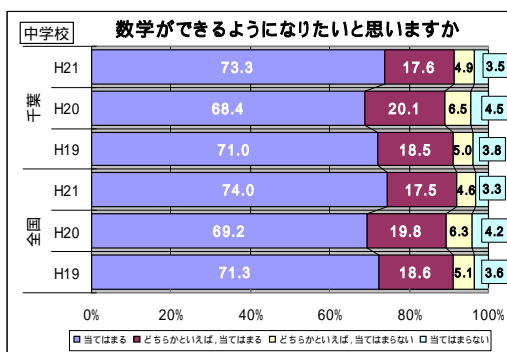
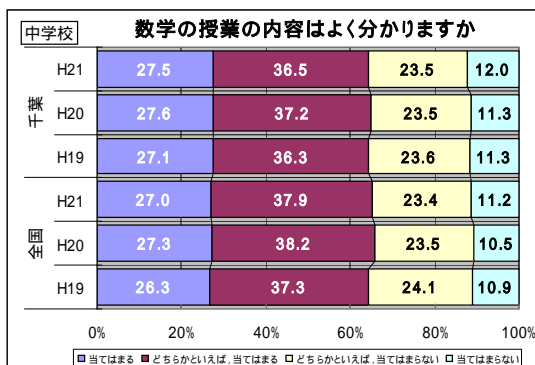
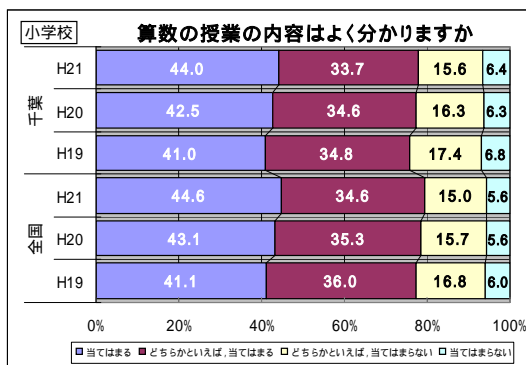
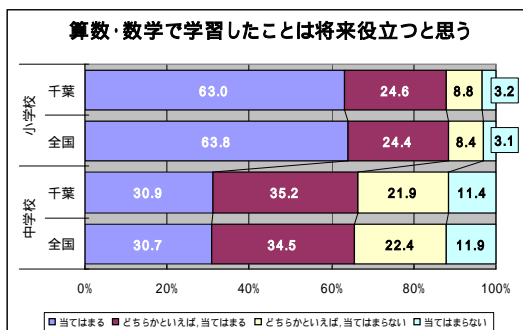
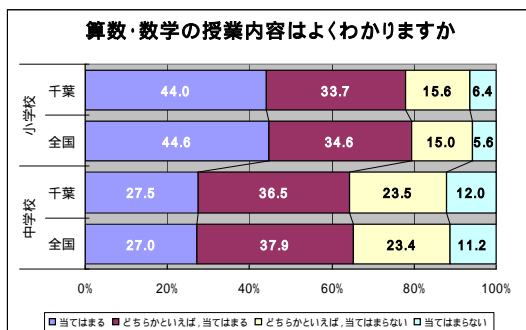
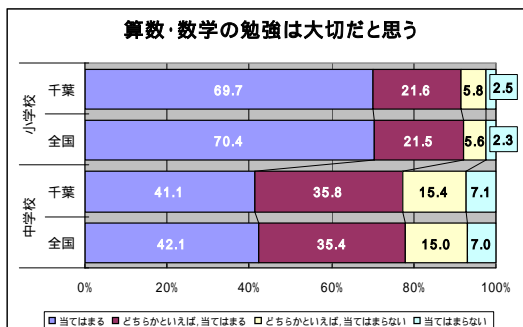
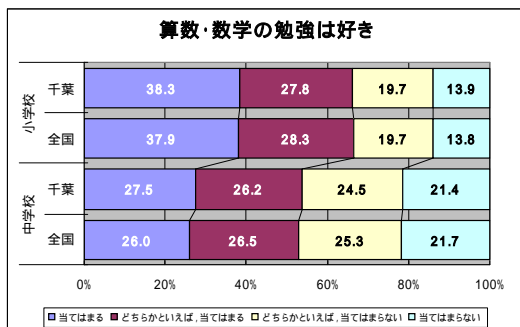
児童生徒質問紙で「設問について、長い文章を読むのは難しかったですか」(新規)との問いについては、



小中学校とも、全国に比べ「難しい」と回答する児童生徒の割合は低く、「難しいとは思わない」と回答する児童生徒の正答率は各教科とも高い。

算数・数学

「好き」「大切」「役に立つ」「分かる」とも、全国とほぼ同程度である。
 小学校では、「よく分かる」と回答した割合が増加傾向にある。
 中学校では、「できるようになりたい」と回答した割合が増加傾向にある。



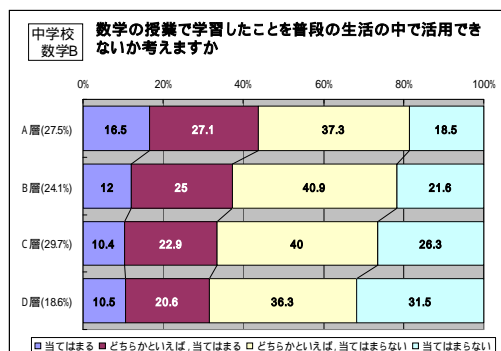
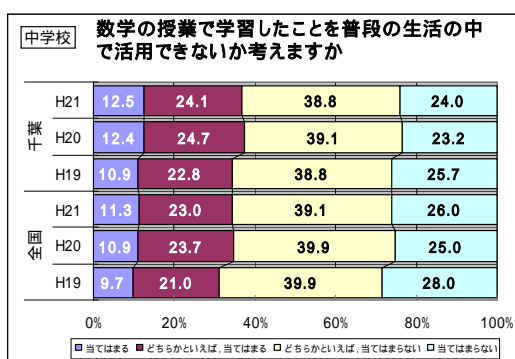
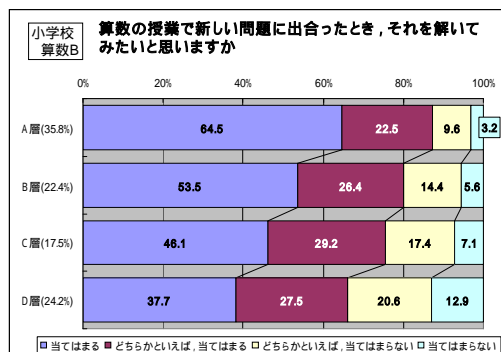
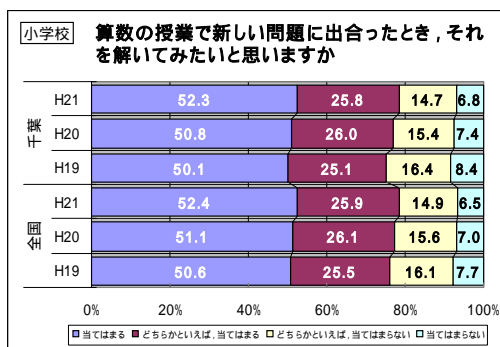
3年間の推移を見ると、小中学校ともに、わずかではあるが「算数の授業がよくわかる」と回答した割合が増加している。

中学校では「数学ができるようになりたい」と回答した割合が増加している。

小学校には、同様の設問がない。

小学校では、「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」児童の割合は増加の傾向が見られ、上位層ほどその傾向が強いことがわかる。

中学校では、「学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える」生徒の割合が増加の傾向が見られ、上位層ほどその傾向が強いことがわかる。

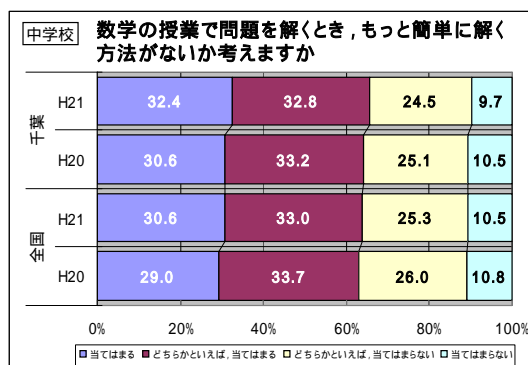
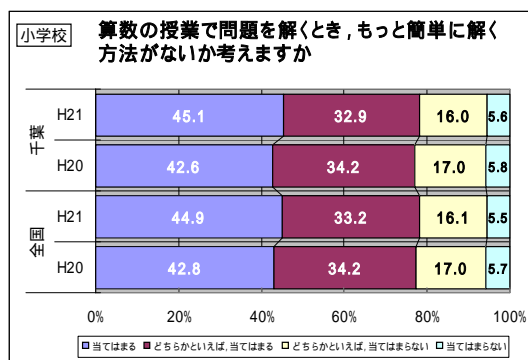


算数・数学の授業への取組について

Q 問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

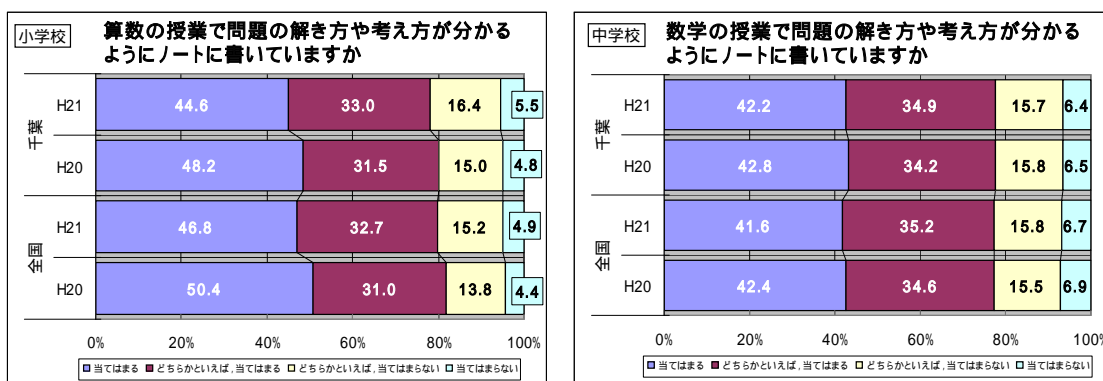
Q 公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

上記2つの設問については、「当てはまる」と回答する割合が全国平均より高い。

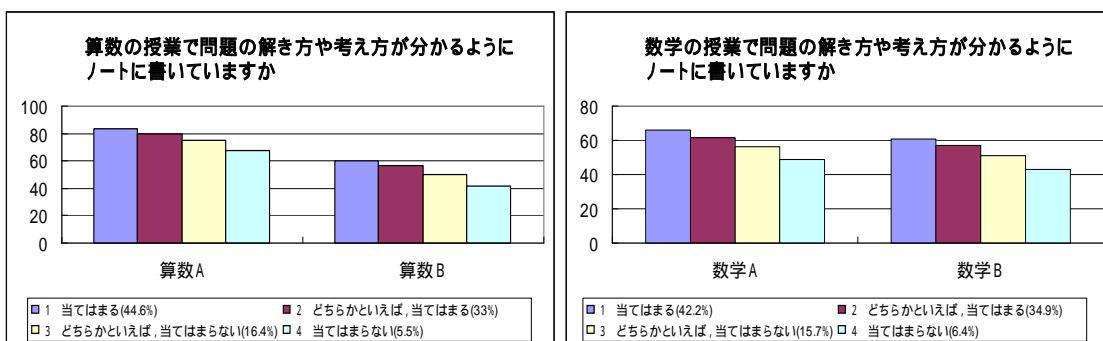


「公式・・・」に関する傾向は同じ傾向であるため、グラフを略す。

Q 問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

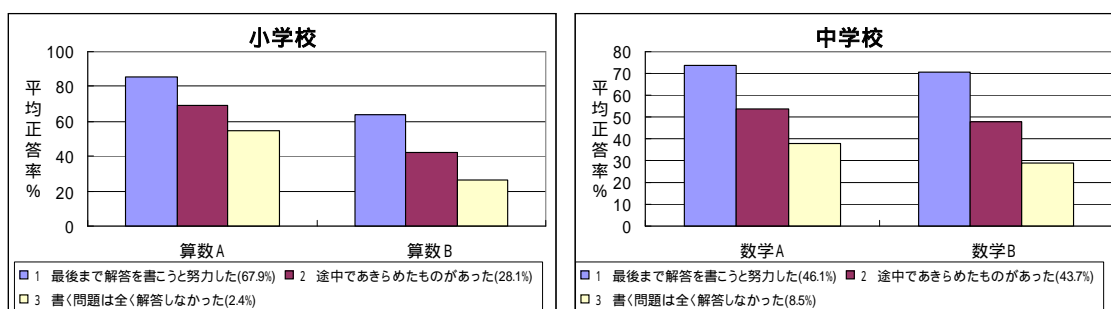


「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の設問については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が全国平均より低い。



「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートを書いている児童生徒ほど平均正答率が高いことがわかる。

小学校「言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、どのように解答しましたか」中学校「解答を言葉や式を使って説明する問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか」の問いについては、「最後まで解こうと努力した児童生徒ほど平均正答率が高い」ことがわかる。



なお「書く問題は全く回答しなかった」と回答した小学生は2.4%（全国2.2%）中学生は8.6%（全国7.9%）であった。

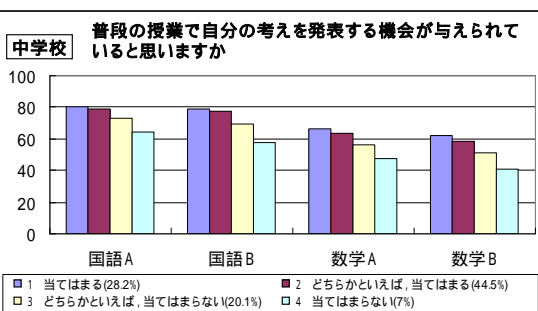
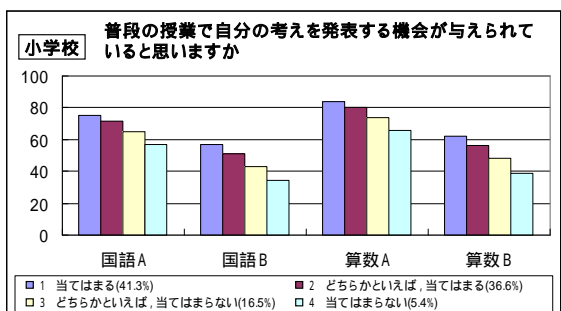
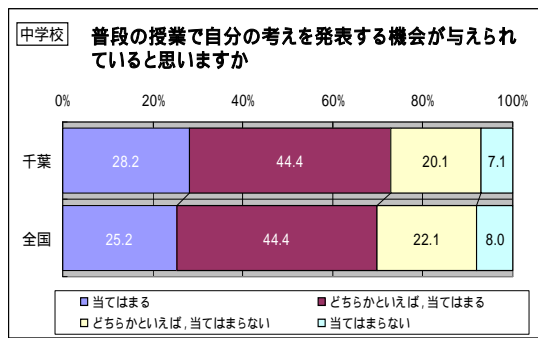
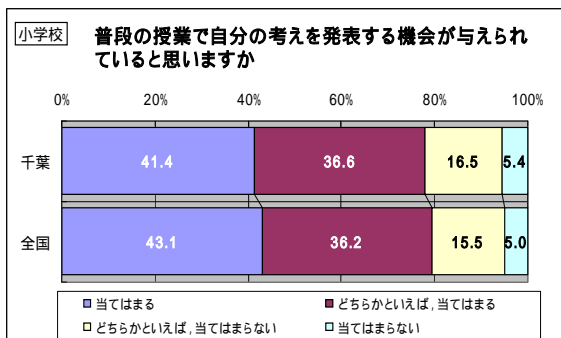
普段の授業の在り方について

Q 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか

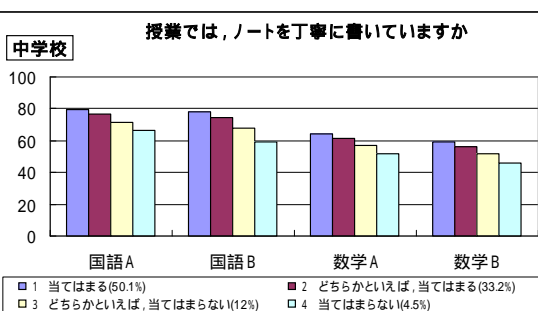
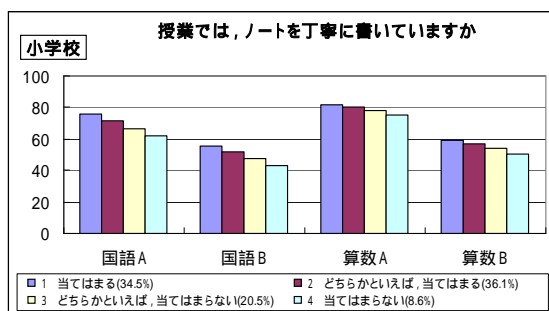
Q 授業では、ノートを丁寧に書いていますか

Q 400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか

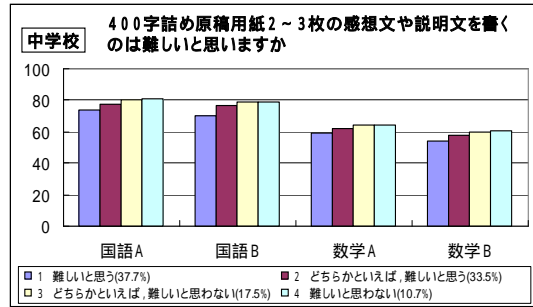
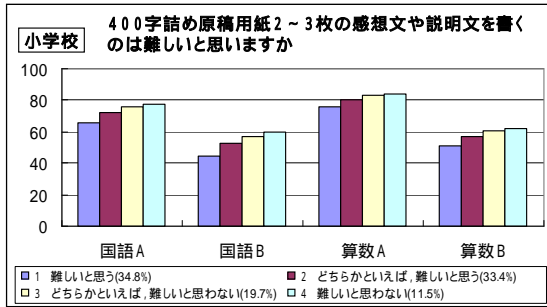
Q 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思いますか



小中学校ともに、上記4つの授業の在り方について、平均正答率との関連が見られる。小学校と中学校を比較すると、中学校になると「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計した割合が減少する。

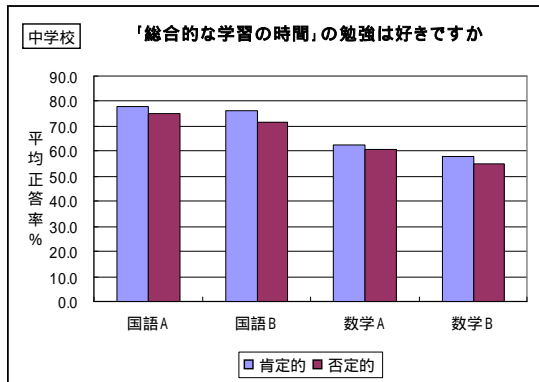
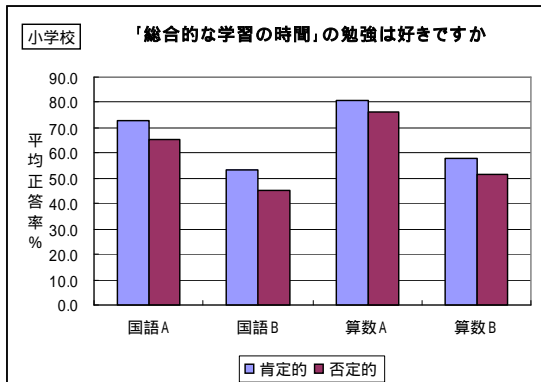
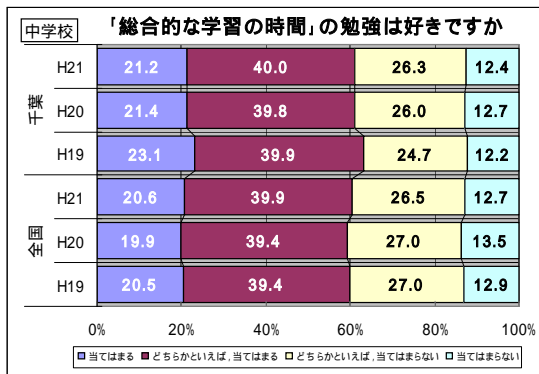
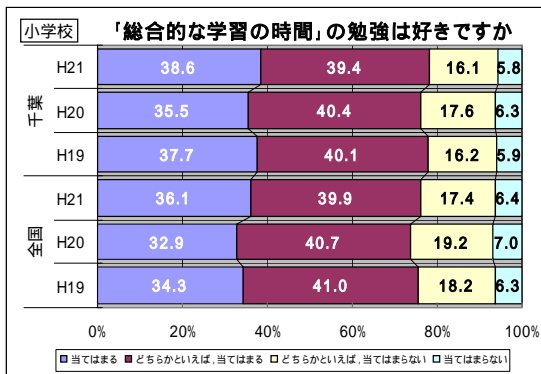


「授業では、ノートを丁寧に書いていますか」との設問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、70.6% (全国 73.6%) 生徒の割合は、83.3% (全国 85.1%) である。「当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、正答率が高い傾向がある。



「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか」の設問について、「難しいと思わない」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がある。

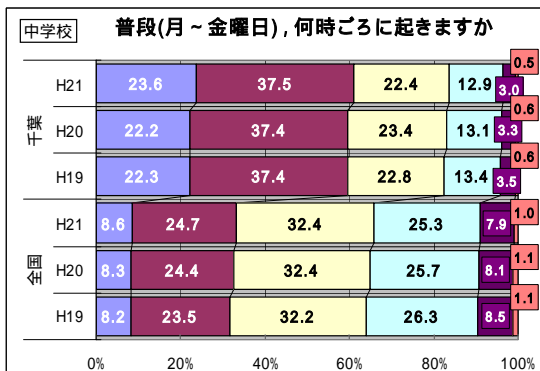
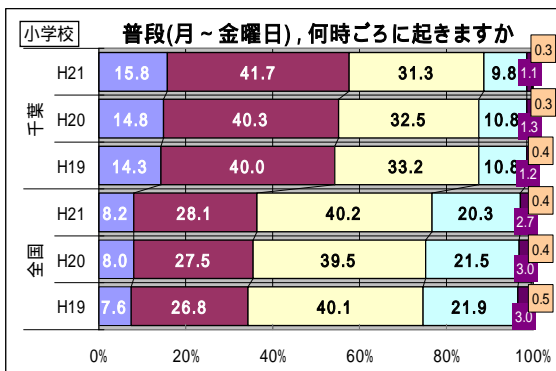
小学校では「総合的な学習の時間」について、「好き」「どちらかといえば、好き」と回答する割合が平成20年度と比較し増加の傾向がある。



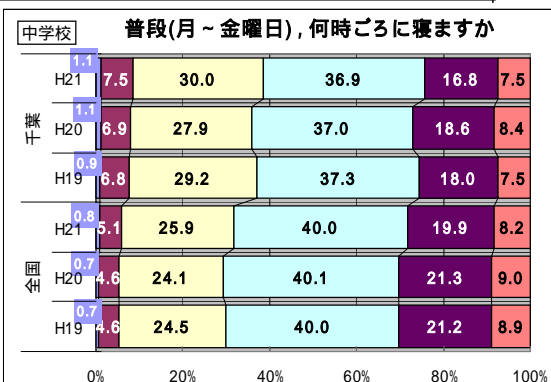
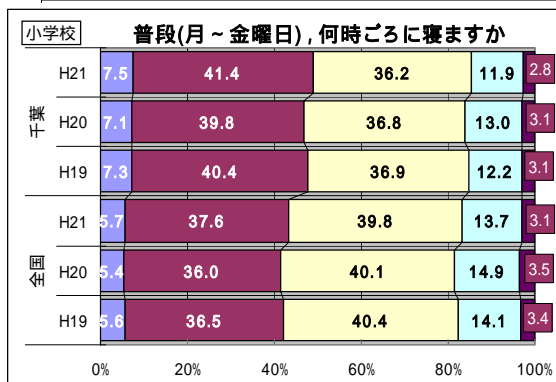
「好き」「どちらかといえば、好き」と肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

< 基本的生活習慣 >

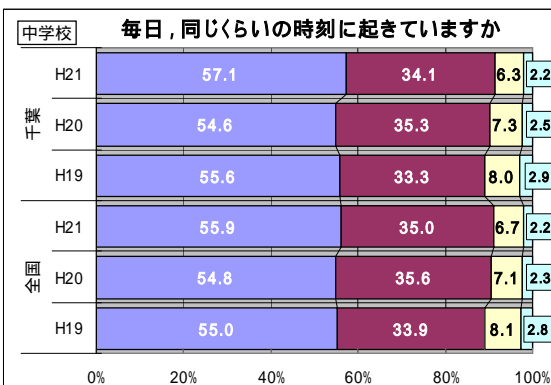
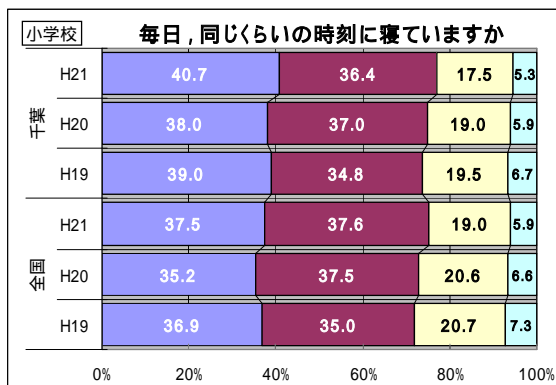
早寝・早起きの割合が、全国よりも高い。
 中学校では、学校に行く前に持ち物を確認する生徒の割合が全国より低い。
 正答率が低い層は、事前に持ち物を確認する割合が低いことがわかる。
 「朝食を食べること」と「学校での出来事を家の人と話をすること」は、学力と関連がある。



■ 午前6時より前
 □ 午前6時30分以降、午前7時より前
 ■ 午前7時以降、午前7時30分より前
 ■ 午前8時以降

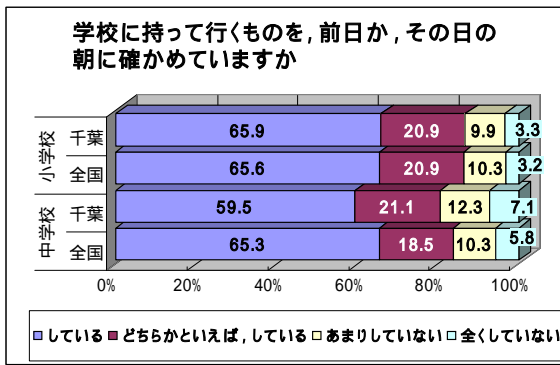


■ 午後9時より前
 □ 午後9時以降、午後10時より前
 ■ 午後10時以降、午後11時より前
 ■ 午前0時以降



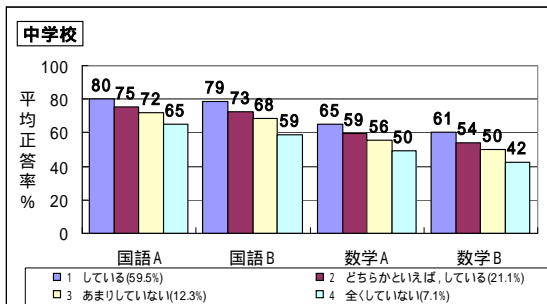
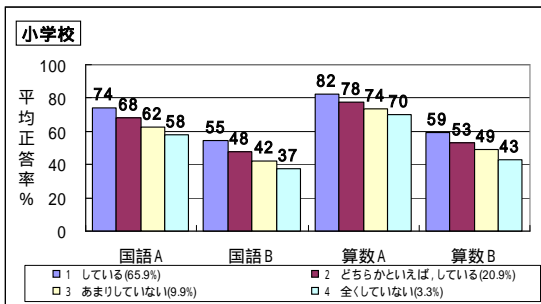
■ している ■ どちらかといえば、している □ あまりしていない □ 全くしていない

小・中学校ともに生活習慣について、取組が進んでいる傾向が見られる。

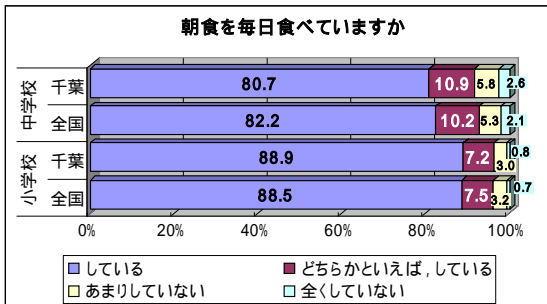


全国平均と比較すると、「学校に持って行く物を前日かその日の朝に確かめていますか」の設問については、中学校で「全くしていない」と回答する割合が高い。

回答と平均正答率の関連は、下のグラフとなり、「確かめる」と回答した児童生徒ほど、正答率が高いことがわかる。

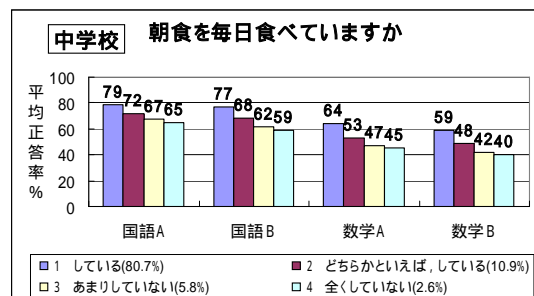
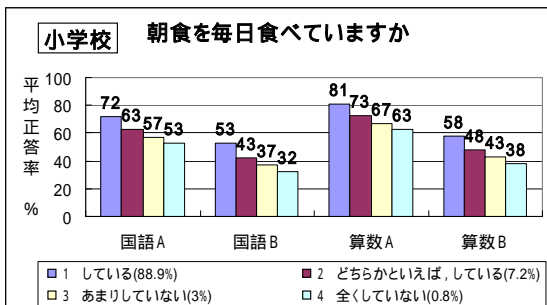


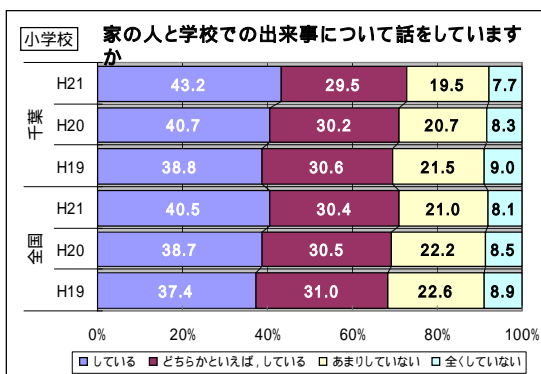
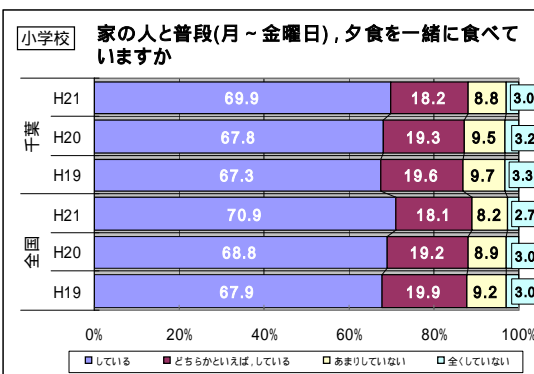
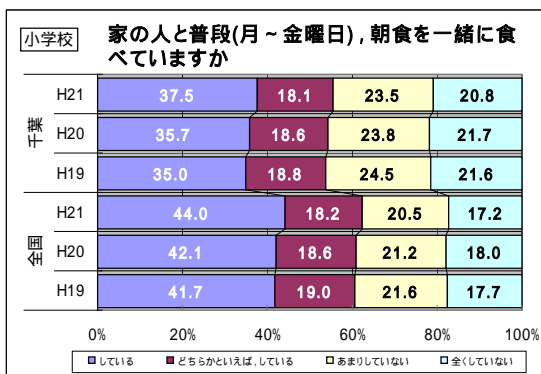
家庭の関与と学習との関連



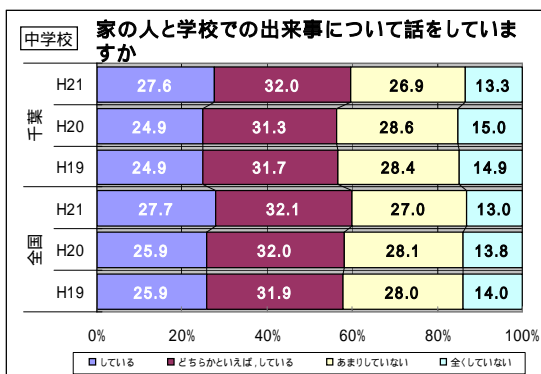
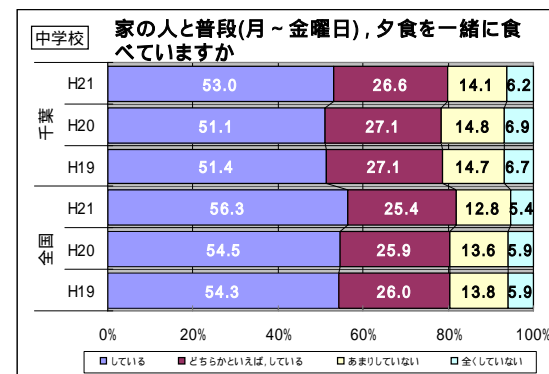
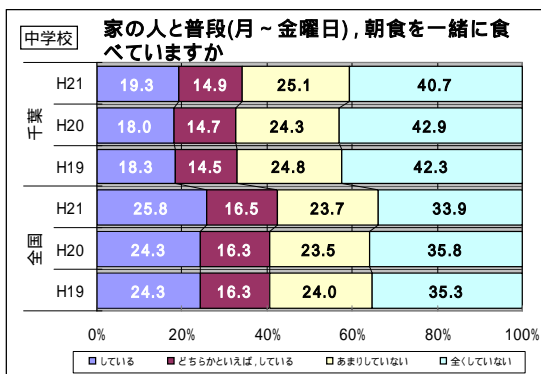
「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は、全国より若干低い。

回答と平均正答率の関連は、「毎日たべる」と回答するほど平均正答率が高い傾向がある。

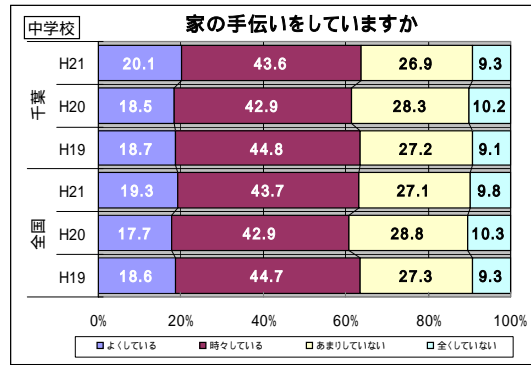
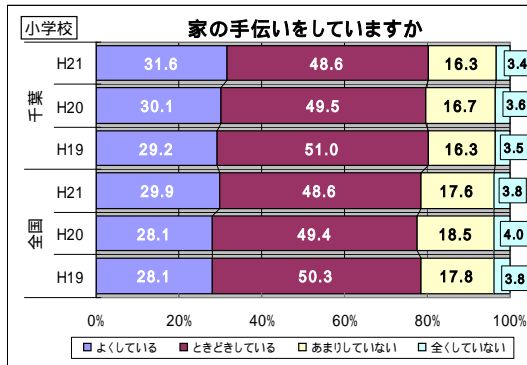




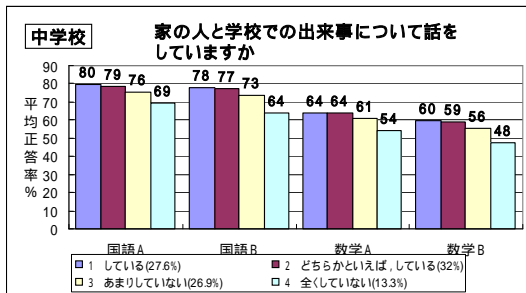
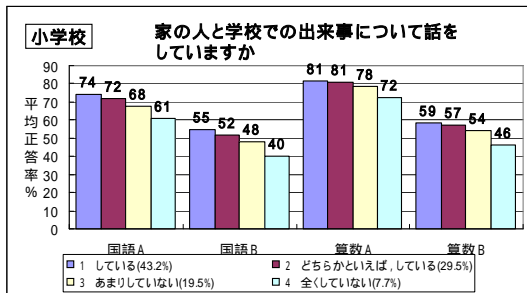
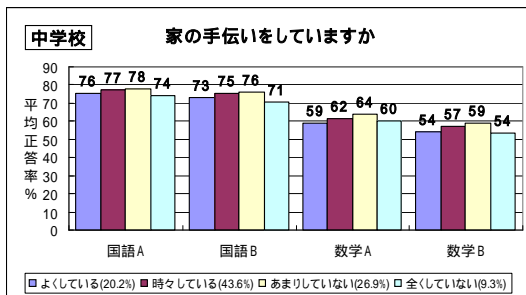
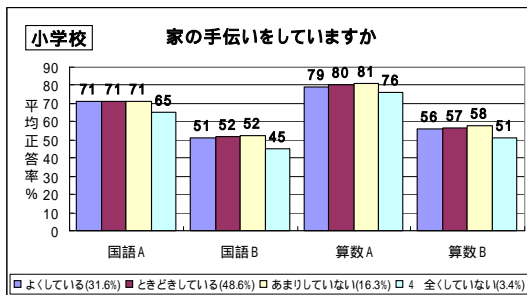
小学校では、「家族とともに、夕食を一緒に食べること」、「学校での出来事を話すこと」の割合が、全国平均より高く、また、「家族とともに、朝食を一緒に食べること」を含め、経年変化を見るとその割合が増加している。



中学校では、「家族とともに、朝食・夕食を一緒に食べること」の割合が全国より若干低いですが、経年変化からは、その割合が増加している。「学校での出来事を話すこと」の割合が、全国平均より高く、また、経年変化では、その割合が増加している。



経年変化では、小中学校とも、「家の手伝いをする」割合が増加している。



「家の人と朝食・夕食を一緒に食べていますか」「家の手伝いをしていますか」の設問に否定的（「全くしていない」）に回答した児童生徒の平均正答率は、他の選択肢を選んだ者より低い傾向がある。

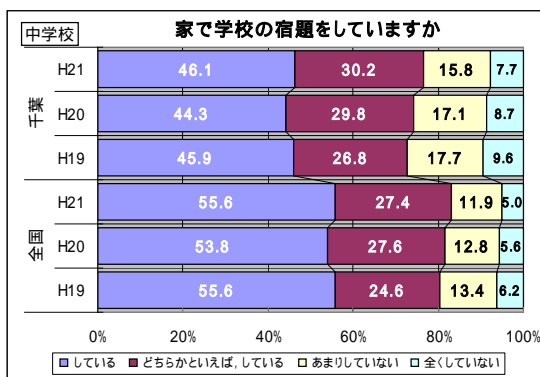
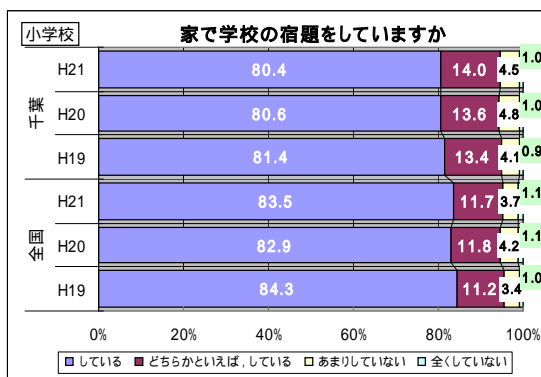
「家の人と学校の出来事の話をする」との設問と平均正答率とは、関連があることあることがわかる。

- ・ H19・H20の知見と同様に、生活習慣が規則正しい児童生徒の正答率が高い傾向があることがわかっている。
- ・ 家庭で、学校での出来事話すことや家の手伝いをすることと正答率と関連の高いことがわかっている。

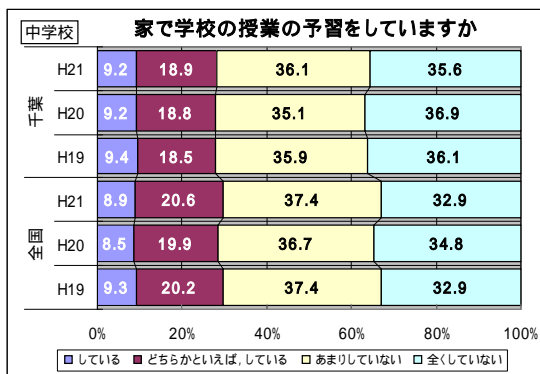
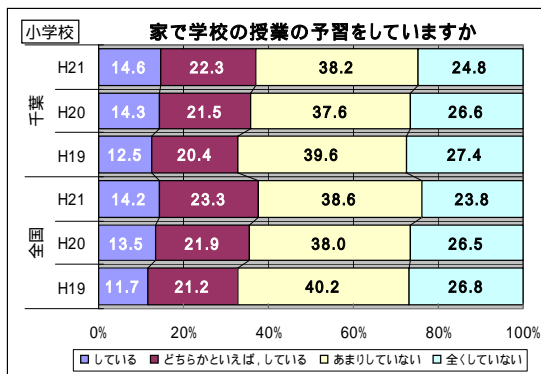
< 学習時間等 >

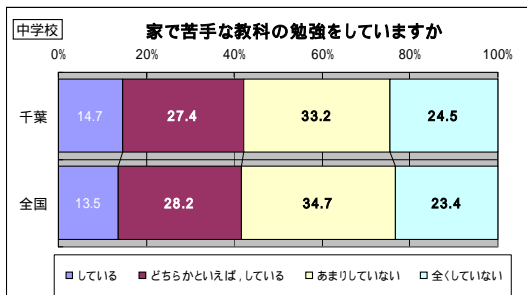
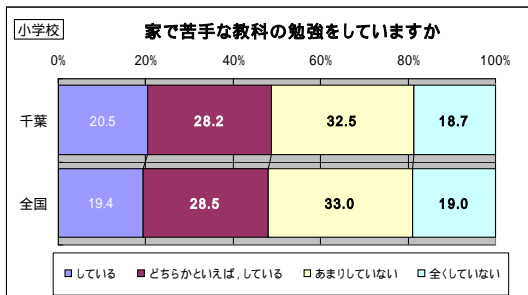
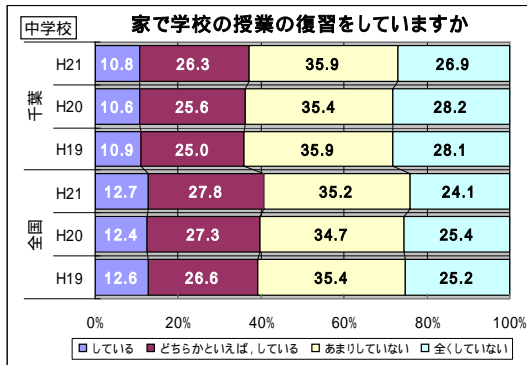
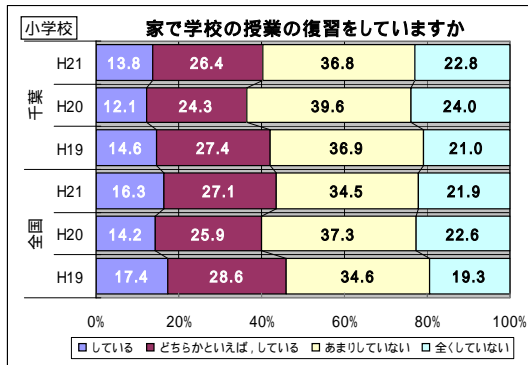
小中学校とも、家で宿題をすると回答した児童生徒の割合が全国よりも低い。
 中学校では、家で宿題をすると肯定的に回答した割合が徐々に高くなっている。
 小中学校とも、家で全く学習しない児童生徒の割合が全国より高い。
 学習塾などで勉強している児童生徒の割合が全国より高い。
 自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合は増加傾向にある。
 正答率の高い層ほど「テレビゲーム・インターネット・テレビ等を見る」時間が少ない傾向がある。
 携帯電話を使って通話やメールをしている児童生徒の割合が高い。
 「携帯電話の使用について、約束を守っている」児童生徒の方が正答率が高い傾向がある。
 新聞やテレビのニュースなどに関心のある児童生徒の割合が全国に比べ高い。
 地域行事へ参加している児童生徒の割合が全国に比べ低い。
 「学校のきまり・規則を守っている」と回答する児童生徒の割合は、増加の傾向にあり、正答率が高いほど「規則を守る」と回答する割合が高い傾向がある。
 「友達との約束を守る」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答する児童生徒ほど正答率が高い傾向がある。

家庭での学習内容

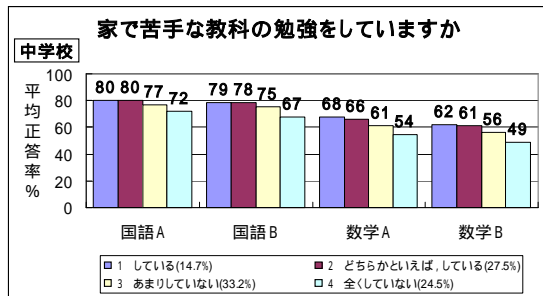
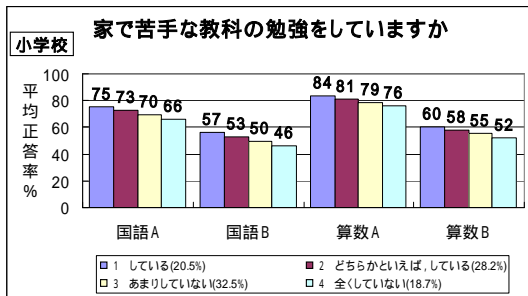


中学校では、全国平均よりも低いですが、宿題をする割合が徐々に高くなってきている。

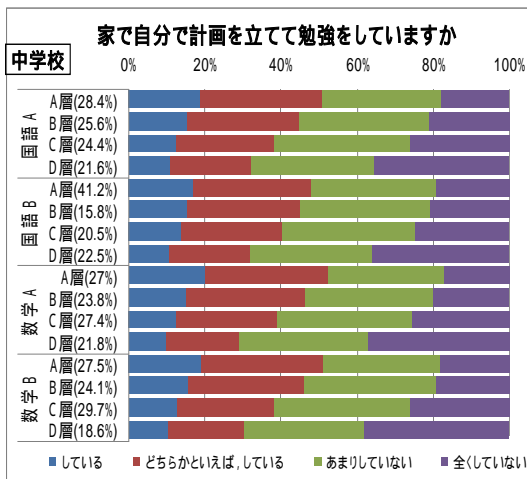
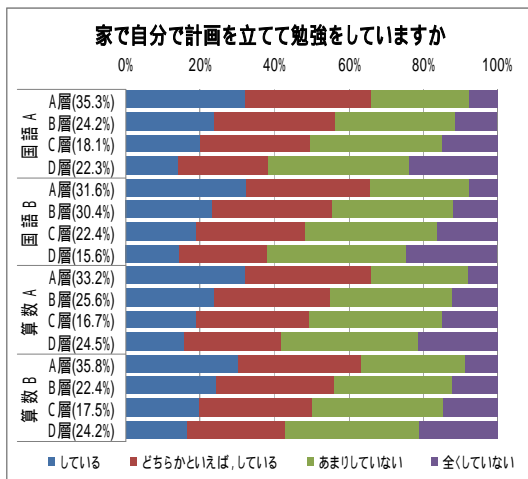




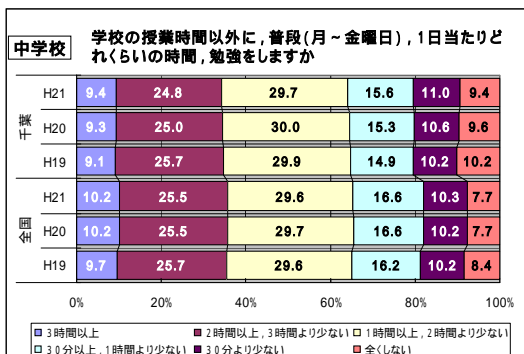
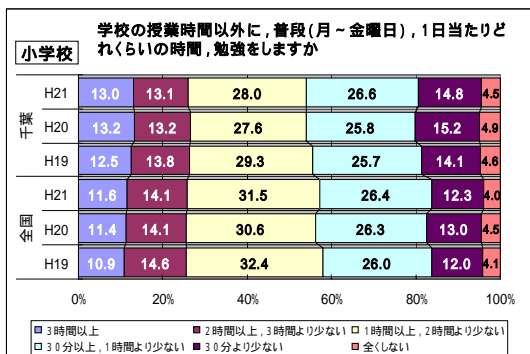
家で「宿題をする」「予習をする」「復習をする」「苦手な教科を勉強する」の設問について肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がある。



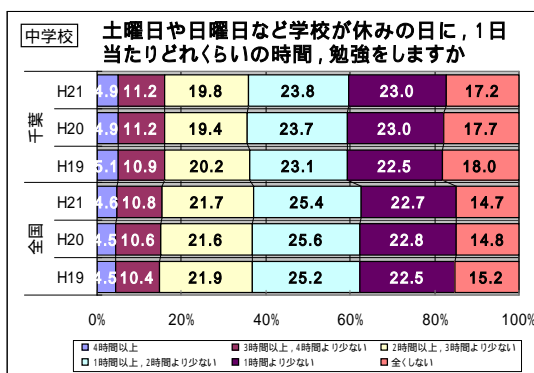
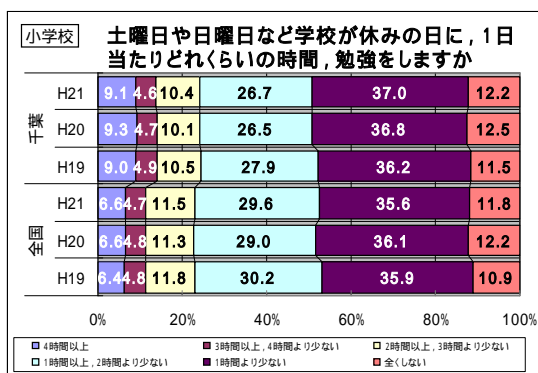
また、児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分けた場合、上位層ほど肯定的な回答が多い。



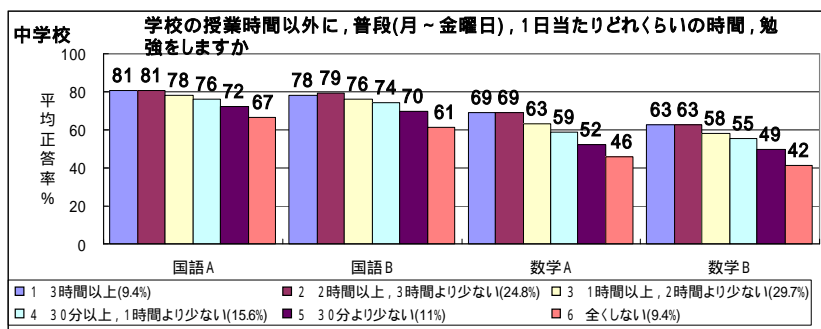
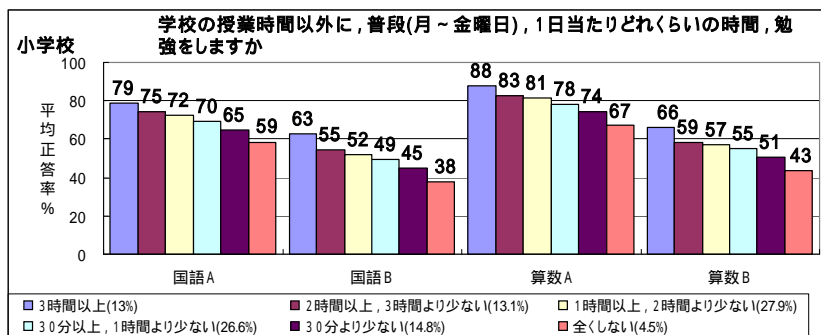
学校以外での学習時間 月曜日から金曜日の



土曜日や日曜日

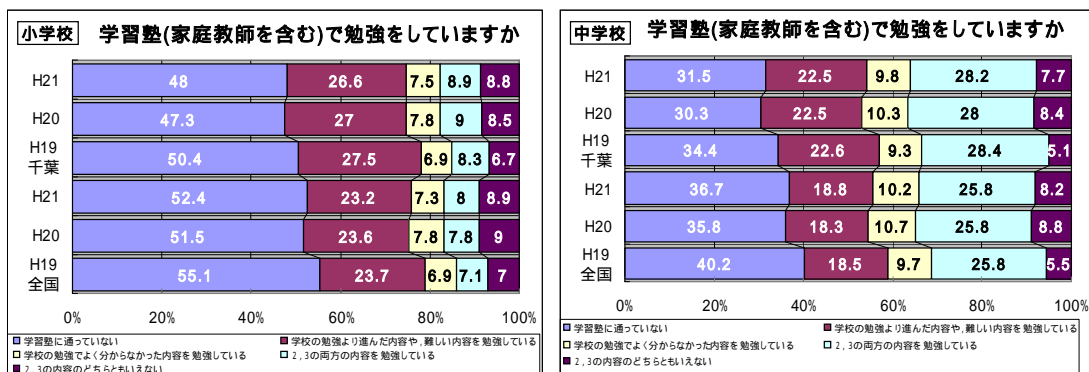


・全国に比べて、家庭での学習を全くしない児童生徒の割合が高い。

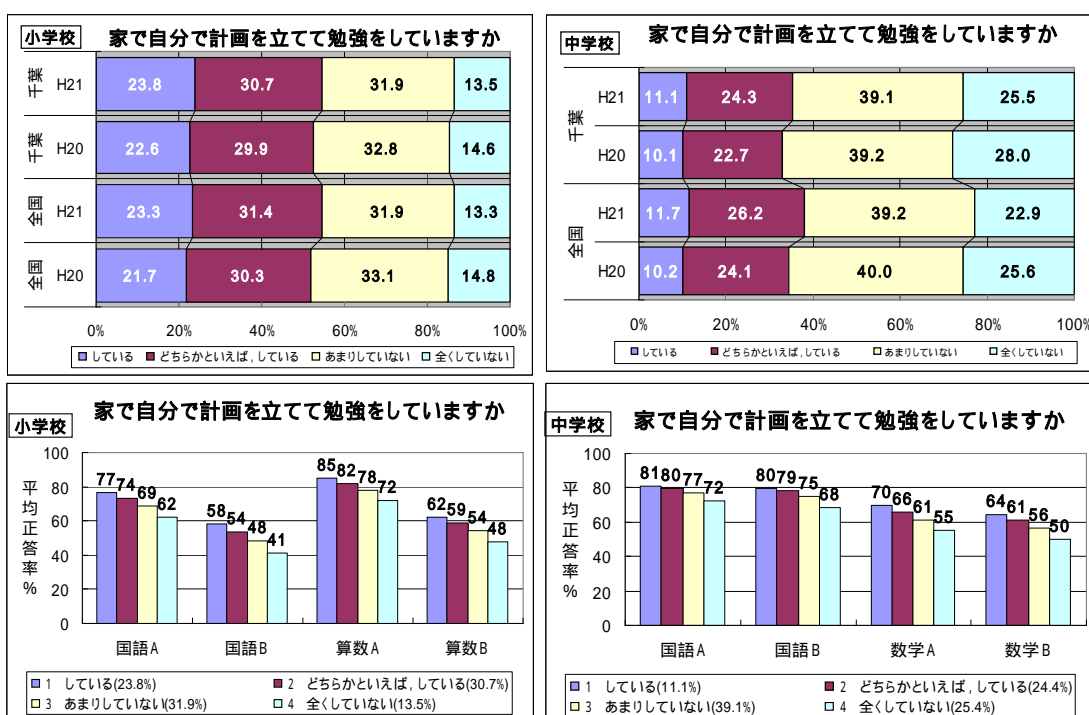


・家庭学習する児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

通塾について

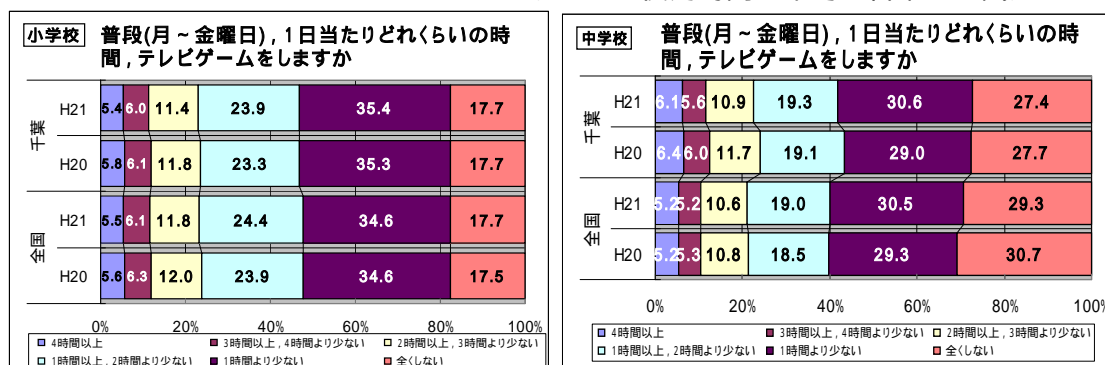


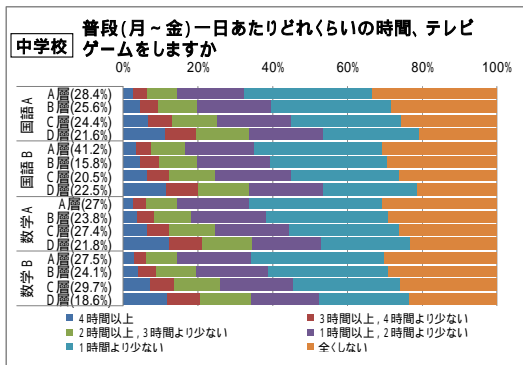
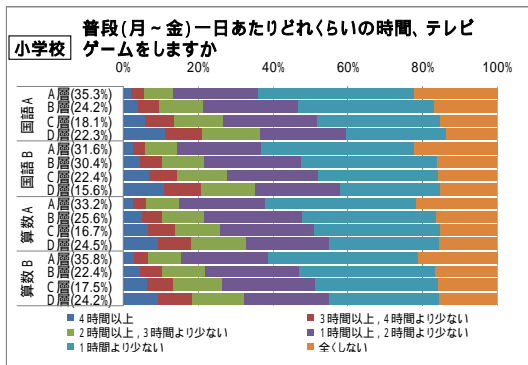
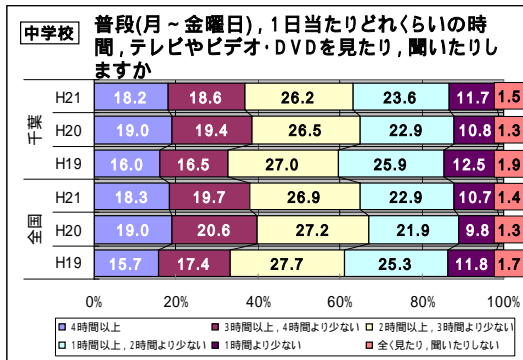
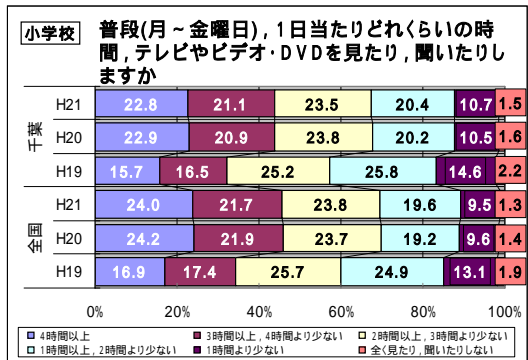
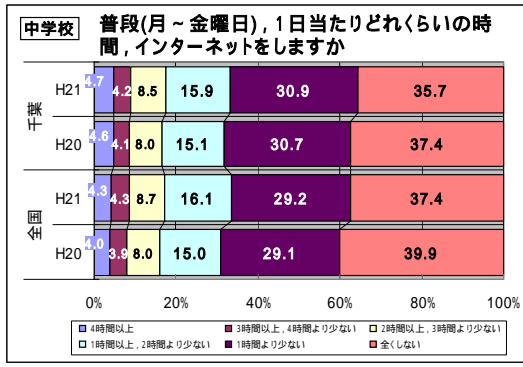
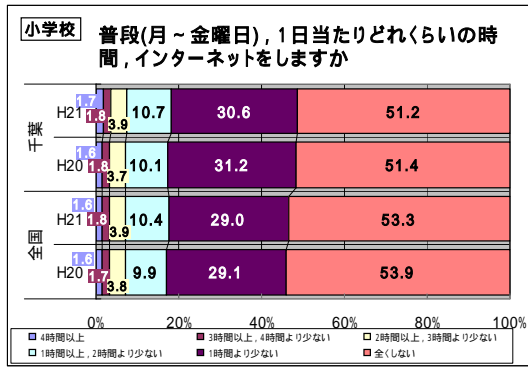
全国と比較すると通塾する児童生徒の割合が高い



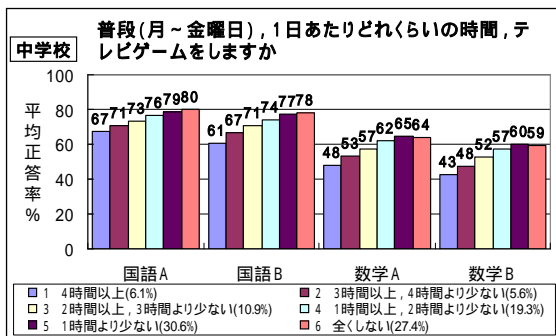
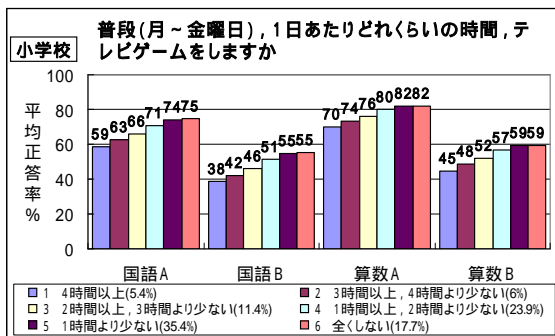
自分で計画を立てて家で勉強する児童生徒の割合は、増加傾向にある。また、この設問に肯定的に回答するほど平均正答率が高い傾向がある。

テレビゲーム・インターネット・テレビやビデオ使用時間と平均正答率との関連



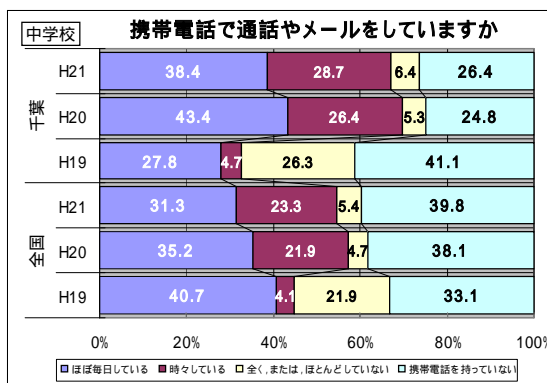
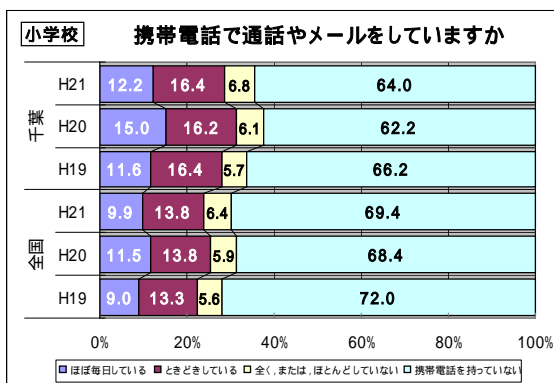


児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分け, 学習時間との関連をみると, 上位層ほど「テレビゲームをする時間が少ないことがわかる。この傾向は, 家庭での「インターネットをする時間」や「テレビやDVD・ビデオを見る時間」についての設問も同様の傾向がある。

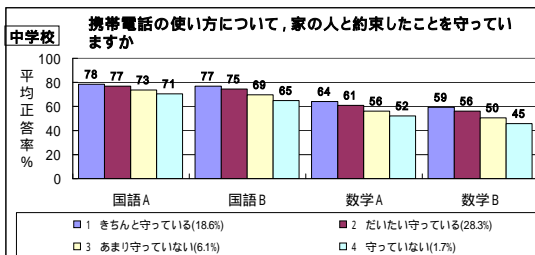
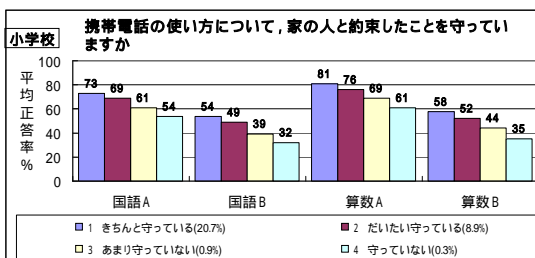
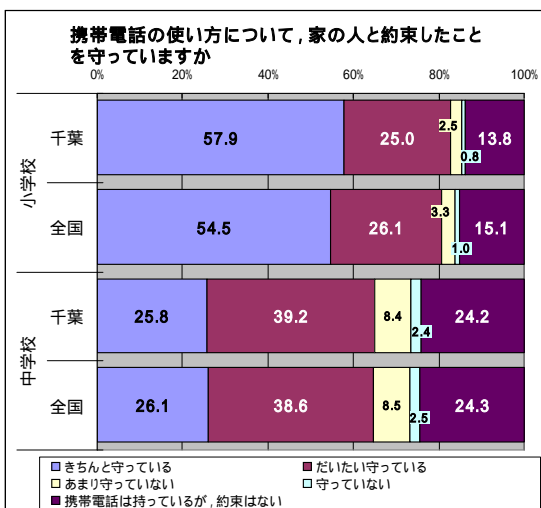


それぞれの回答別の平均正答率は上のようになり, テレビゲームをする時間が長いほど, 平均正答率が低い傾向が見られる。

携帯電話と学力



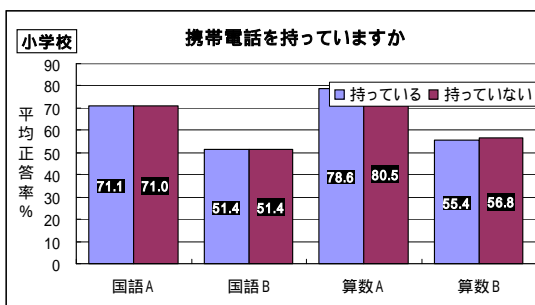
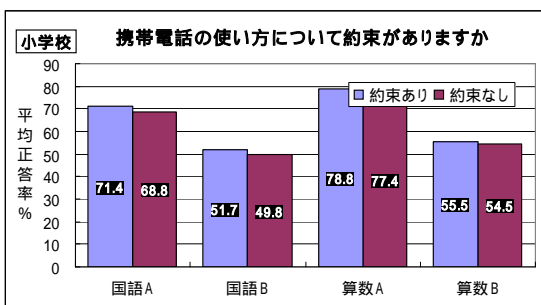
小中学校とともに全国と比較して、携帯電話の所持が多いことがわかる。
平均正答率との相関は、不明である。

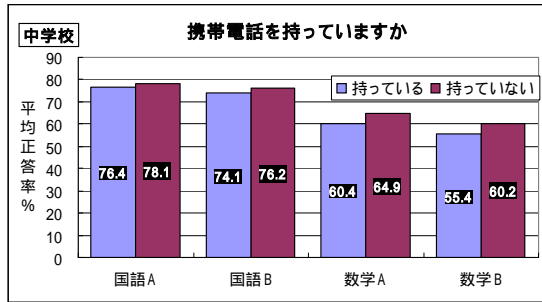
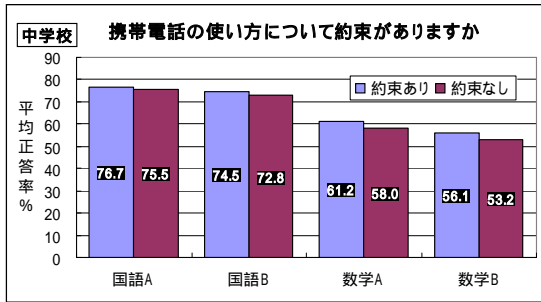


「携帯電話の使用について、約束を守っているかどうか」の設問について、携帯電話を持っていると回答したのものについて、その割合を示したものが上左のグラフです。

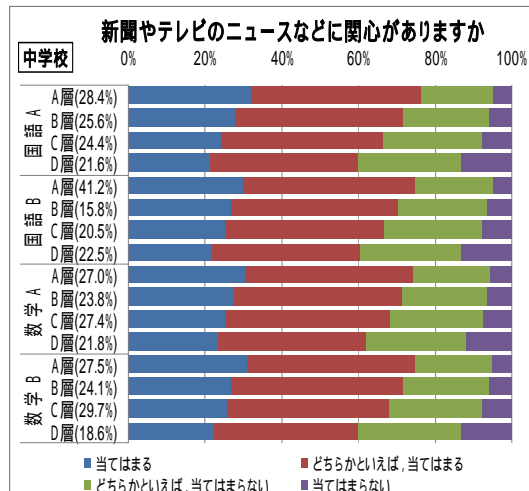
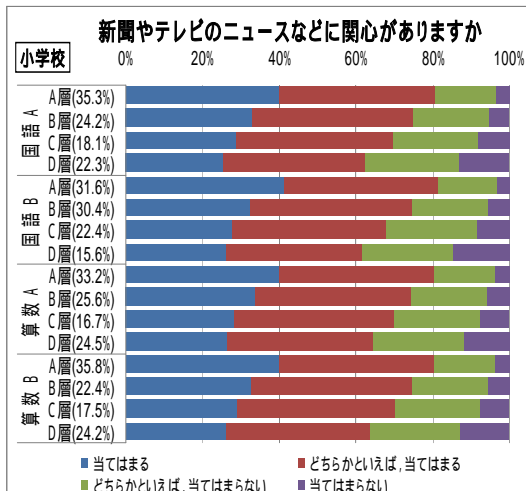
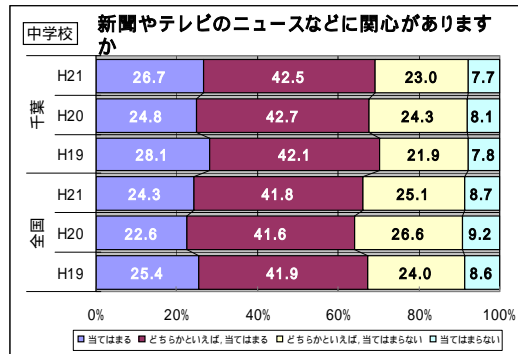
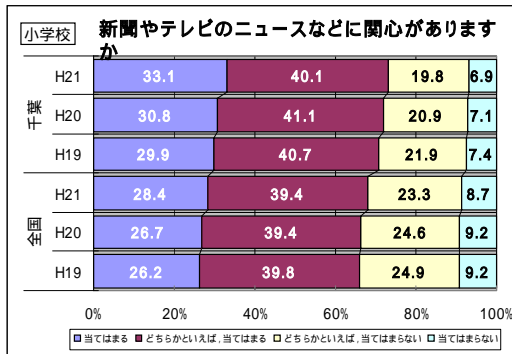
小学生では、約束を守っている子の割合が全国よりも高い。

また、上右のグラフは、携帯電話について約束がある児童生徒について、守っているかどうかと平均正答率の関連を示したものです。約束を守っている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。



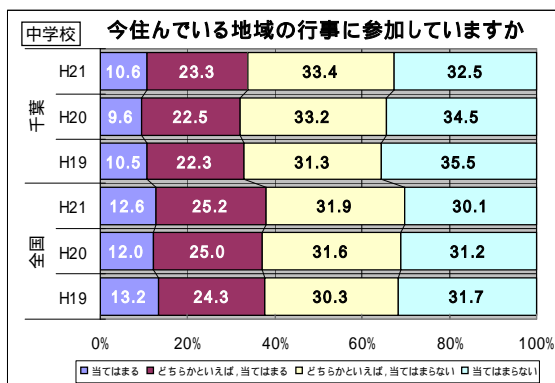
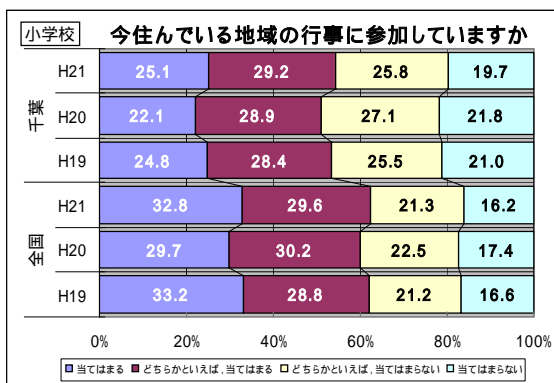


新聞やテレビのニュースへの関心



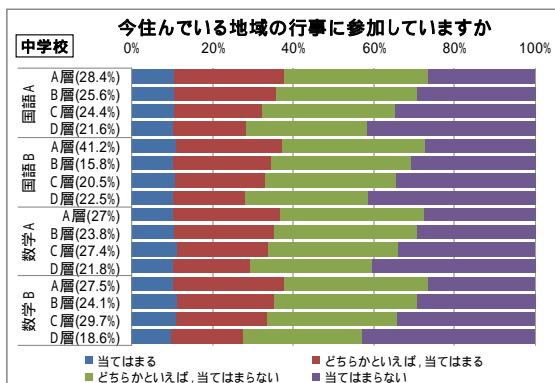
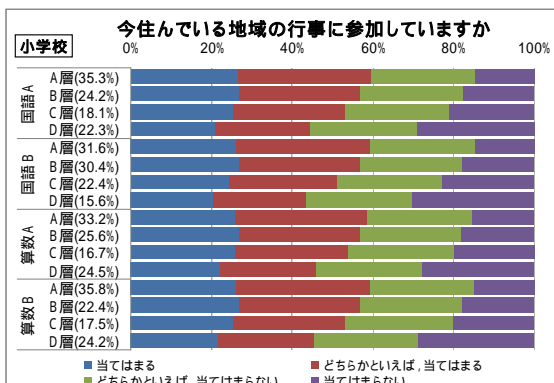
児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分け、各層別の回答の割合をグラフ化すると上位層ほど、新聞やニュースなどに関心があると回答する傾向がある。

地域の行事への参加

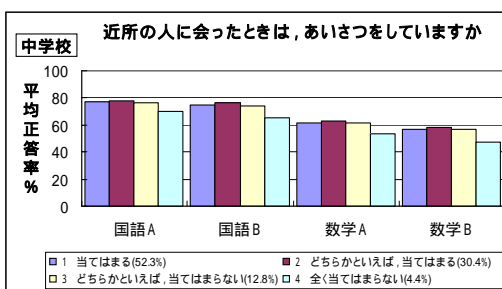
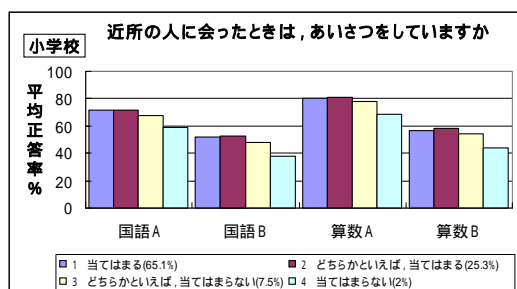
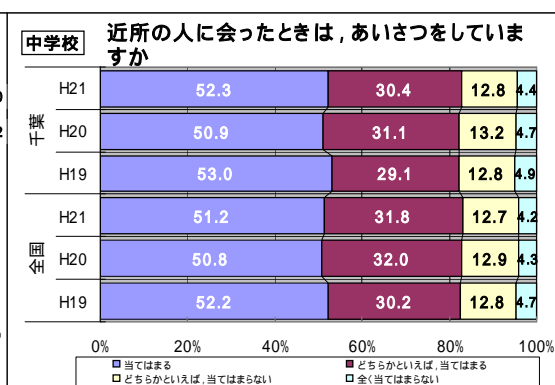
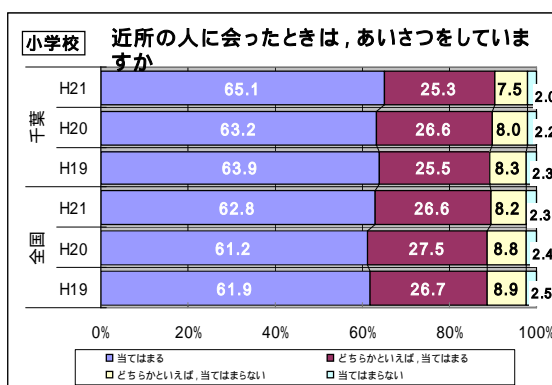


「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」の設問についても、ほぼ同様の傾向が見られる。

児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分けて、設問への回答状況は次のようになる。

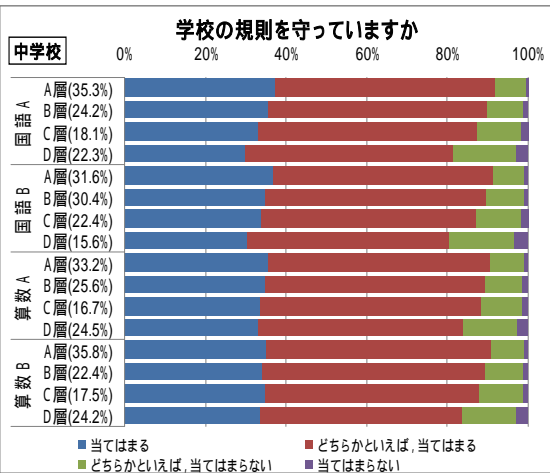
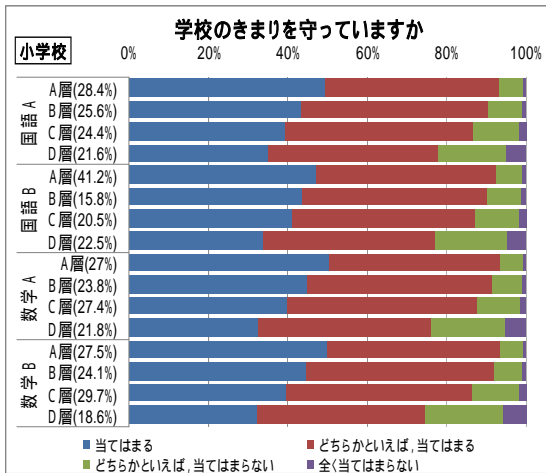
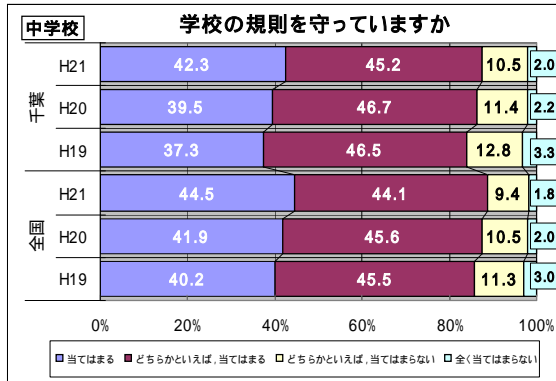
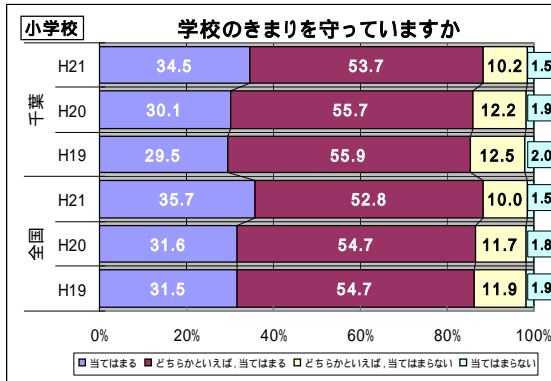


上位層ほど、地域行事に参加していると回答する割合が高い傾向がある。



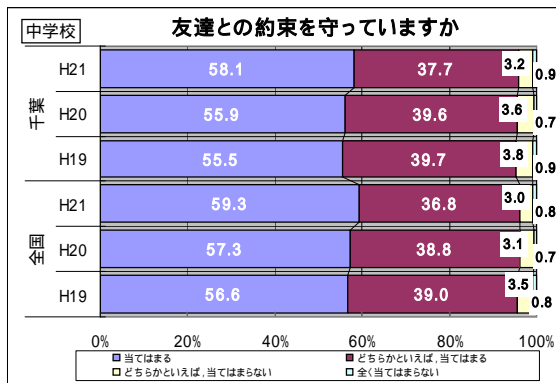
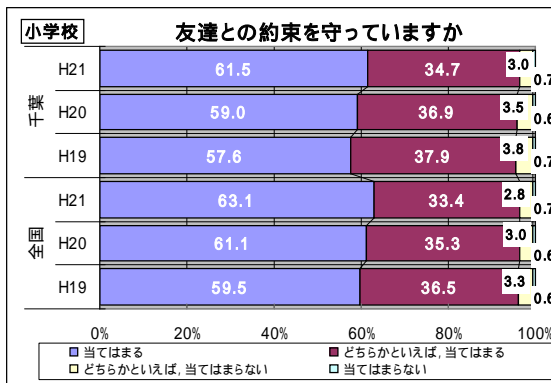
「近所の人にあったとき，挨拶する」(どちらかといえばを含む)と回答する児童生徒の割合は，わずかではあるが増加の傾向にあることがわかる。また，「どちらかといえば，当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒ほど正答率が低い傾向がある。

きまり・約束との関連



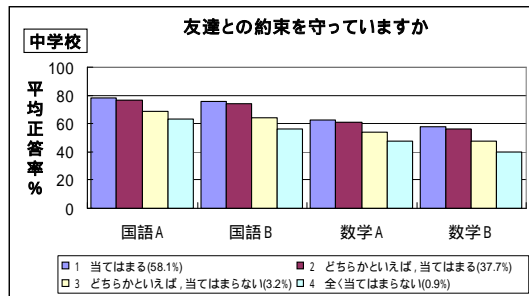
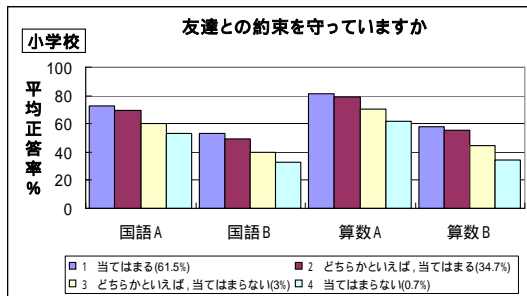
「学校のきまり・規則を守っている」と回答する児童生徒の割合は増加傾向にある。

児童生徒を正答率上位から25%を目安にA層・B層・C層・D層の4つの層に分け回答状況を比べると，上位ほど「規則を守る」と回答する傾向がある。

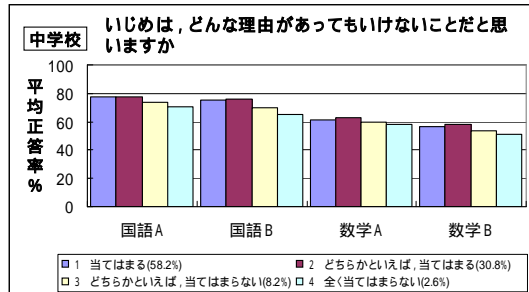
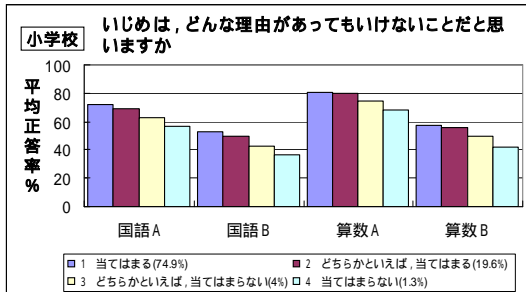
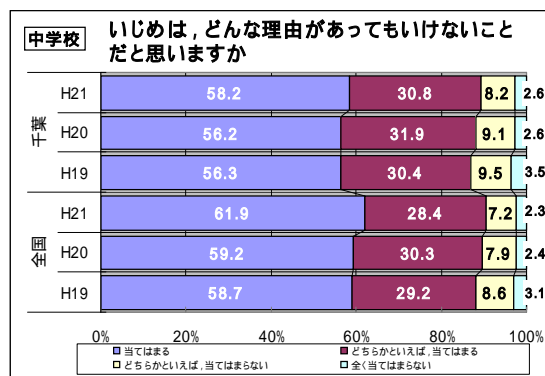
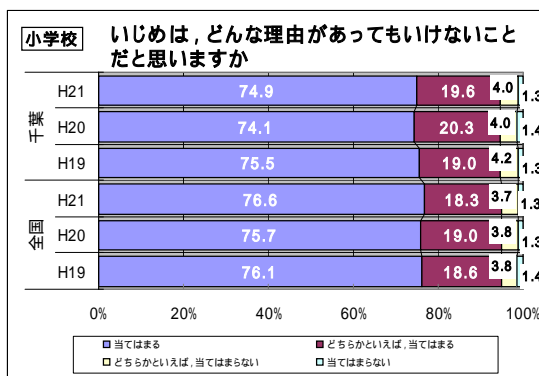


「友達との約束を守っている」と回答する割合についても，増加する傾向にある。

設問への回答別の正答率の平均は、次のようになり、「守っている」と回答する児童生徒ほど正答率が高い傾向がある。



いじめとの関連



「学校のきまり・規則」「友達との約束」「いじめはいけないことだ」等の設問における結果から、規範意識が高い児童生徒は、正答率が高い傾向がある。